

No.37/2020

図書館文化史研究

日本図書館文化史研究会

●シンポジウム●

図書館史研究と資料保存

シンポジウムの趣旨

鈴木 宏宗 1

中田邦造哲学受講ノートの発見と
石川県立図書館への寄贈について

鷺澤 淑子 9

ともに活かし継承するために
—資料の整理と利用の経験から—

石川 敬史 17

●論文●

明治初期、岐阜県下に於ける元県学校所蔵書籍の行方
—元岩邑県支那学校蔵書の払い下げと上納—

膽吹 覚 31

1920年代における日本の公共図書館に対する
社会教育主事の関与 —神奈川県を事例として—

仲村 拓真 51

夏の司書教諭講習の実態
—歴史的変遷と2016年の事例調査から—

中村百合子 79

●研究ノート●

新潟アメリカ文化センターの歴史と資料

石原 眞理 113

●書評●

シュレットインガー著『図書館学ハンドブック』

松井 健人 137

ISSN 1342-6761 日外アソシエーツ発行

[シンポジウム]

図書館史研究と資料保存

日本図書館文化史研究会 2019年度研究集会シンポジウム
2019年9月14日 石川県立図書館

すずき ひろむね
鈴木 宏宗
(国立国会図書館)

シンポジウムの趣旨

1. はじめに

図書館史研究に関して、いわゆる研究上の資料や史料、マテリアルとドキュメントの両方を含めて関心が高まり¹⁾、その情報が公開されはじめています²⁾。また、資料については実際には研究する個人は考えているんだろうけれども、なかなか共通の話題になっていないのではないかと考えられます。今回のシンポジウムでは、図書館についての歴史研究における資料、これはドキュメントも含まれますが、その保存や利用について考えるきっかけとなることを目的としております。私の趣旨説明としては、こういった資料を考える時の前提として、その範囲や意義というものを考えたい。ですので、こういった図書館関係の集まりで資料保存とか言いますと、具体的に水でおかしくなったらどうするかとか、中性紙がどうだとか、技術的な話もありますが、それは私には荷が勝ちすぎており、能力不足でありますので、そういったところは省略をして進めさせていただくところで。

まず、資料といったものにこういったものがあるか。これは次の表に載せてあるのと、だいたい同じ内容のはずです。

2. 資料の範囲と所蔵先

	資料	主な所蔵先
①	根拠となる文書、設置の記録	親機関、文書館、個人（運営者やその遺族）
②	図書館自体の現場の運営文書、日誌、受入原簿など	当該図書館の事務部門、個人（関係者やその遺族）
③	図書館の用品、物品	当該図書館の事務部門
④	関係者の日記、手紙、メモ	個人（関係者やその遺族）〔後に文書館や図書館、資料館など〕
⑤	図書館の刊行物（小冊子、ポスター、絵葉書）	当該図書館〔の蔵書〕、事務部門
⑥	過去からの図書館の蔵書	当該図書館
⑦	先行研究、回想録、当時の文献（新聞雑誌）	図書館など
⑧	聞き取り（オーラル・ヒストリー）	図書にまともれば図書館など。音声は談話者、聞き手、研究者の手元か？

図書館史研究に関連してどのような資料が存在し、実際にどのような場所に所蔵されるか（残りやすいか）を一覧でしめています。以下○数字はこの表の数字に対応しています。

①のその図書館設立の根拠となる文書ですとか、設置の記録、特に今、石川県立図書館が建て替えるとなれば、それぞれどういう予算を取って、計画をして、ということがいわゆる公文書として残るはず。そういったものはどういったところに残るかと言うと親機関、県立図書館でしたら県、県に残れば、石川県はまだなかったかもしれませんが、文書館があればそこに残るでしょう。そして、個人というのは、これは良いのかという問題はありますけれども、結構、家に持って帰ってしまった人がいるんですね。公文書なので、本当は組織として残さなければいけないのだけれども、仕事熱心のために家に持って帰って使ったり、またその方が亡くなった後は、そのご遺族に引き継がれているということもあります。

②は図書館自体の現場の運営の文書、具体的には日誌ですとか、図書や雑誌の受入原簿などが考えられます。そういったものは当該図書館の事務

編集後記

新型コロナウイルスにより地球規模で大きな影響が出ております。未来から振り返ったときに、2020年が、図書館の位置づけを含めて、大きな時代の変わり目であったと評されるかもしれません。今どのような対策を行ったかという記録、画像、文書などが史料・資料になってゆくはずです。

今年のシンポジウムは金沢で行われ、図書館史研究の資料を取り上げました。今を考える際にも、何かのきっかけになれば幸いです。

引き続き、会員のみなさまには研究発表の成果をご投稿していただきたく願いたします。

最後になりましたが、刊行についてかわらぬご尽力をいただいている日外アソシエーツ（株）編集局のみなさまに、お礼を申し上げます。

2020年7月31日

泉山靖人（東北学院大学）
小黒浩司（作新学院大学）
鈴木宏宗（国立国会図書館）
三浦太郎（明治大学）
横山道子（神奈川県立藤沢工科高等学校図書館）

編集委員 50音順

図書館文化史研究（年刊）

第37号 2020年10月25日発行

編集 ©日本図書館文化史研究会 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学司書・司書教諭課程

発行 日外アソシエーツ株式会社 〒140-0013 東京都品川区南大井 6-16-16
電話 03 (3763) 5241 (代) 鈴中ビル大森アネックス

印刷・製本 光写真印刷株式会社 表紙デザイン 津田ミナ子

ISBN 978-4-8169-2843-7